

令和元年（2019年）年7月13日  
健康増進課 感染症対策担当  
担当者 松崎、横尾  
内線 1836、1851 直通 0952-25-7075  
E-mail: [kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp](mailto:kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp)

## 腸管出血性大腸菌感染症の集団発生<sup>1</sup>がありました

7月11日（木曜日）唐津市内の医療機関から同じ認定こども園に通う複数の園児が腹痛、血便の症状があり入院している旨の連絡が唐津保健福祉事務所にあり、同事務所が調査を実施したところ、唐津市内の認定こども園の園児3名の腸管出血性大腸菌（O157：オーイチゴーナナ）の感染が確認されました。

同事務所では、現在も、接触者調査を継続しています。

腸管出血性大腸菌は、二次感染（感染者から他の人へ感染すること）や汚染された食品などで感染しますので、別紙を参考に感染予防を心がけてください。

なお、今回の情報提供は、広く腸管出血性大腸菌感染症に対する啓発と注意喚起を目的に行うものです。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条及び第4条において求められているように、患者の人権尊重には御配慮、御理解いただきますようお願いいたします。

1 集団発生とは、同一感染経路で2例以上発生した場合はいいます。（同一世帯のみは含みません）

### 記

#### 1 届出患者の状況

##### 患者

7月8日（月曜日）微熱、腹痛あり。

7月9日（火曜日）腹痛、水様性下痢あり。唐津市内の医療機関を受診。

7月10日（水曜日）血便あり。唐津市内の医療機関を受診後、入院。

7月13日（土曜日）腸管出血性大腸菌感染症（O157）の感染が判明。

##### 患者

7月8日（月曜日）発熱あり。唐津市内の医療機関を受診。

7月9日（火曜日）下痢、腹痛あり。夜に血便あり。

7月10日（水曜日）下痢が続くため、唐津市内の医療機関を受診。

7月11日（木曜日）症状が改善せず、唐津市内の医療機関を受診後、入院。

7月13日(土曜日)腸管出血性大腸菌(O157)の感染が判明。

#### 患者

7月9日(火曜日)発熱あり。

7月10日(水曜日)発熱、腹痛、下痢あり。唐津市内の医療機関を受診。

7月11日(木曜日)血便あり。唐津市内の医療機関を受診後、入院。

7月13日(土曜日)腸管出血性大腸菌(O157)の感染が判明。

現在、患者は7月13日(土曜日)に退院され、快復に向かわれていません。他2名は、現在も、入院加療中です。

## 2 接触者調査の状況

### (1) 届出患者が通園している認定こども園関係者

感染予防対策について指導し、7月11日(木曜日)、12日(金曜日)及び13日(土曜日)に、届出患者が通園している認定こども園の園児及び職員の検便を実施。

現時点での患者の状況をまとめると次のとおりとなります。

患者	年齢	性別	届出年月日	備考
患者	6歳	男	令和元年7月13日	唐津市在住 発症日：7月8日 症状：腹痛、水様性下痢、血便
患者	5歳	男	令和元年7月13日	唐津市在住 発症日：7月8日 症状：腹痛、水様性下痢、血便、発熱
患者	6歳	男	令和元年7月13日	唐津市在住 発症日：7月9日 症状：腹痛、水様性下痢、血便、発熱

## 3 対応

(1) 患者の接触者の健康調査及び検便を実施し、手洗い等の感染拡大防止対策について指導しました。

(2) 患者が通園する認定こども園のトイレなどの施設の消毒及び手洗い等の感染拡大防止対策について指導しました。

4 県内の腸管出血性大腸菌感染症の発生件数  
 (令和元年(2019年)7月13日現在)

(単位:件、人)

年		0 157	0 26	0 111	0 121	0 103	その他	合計
2013	件数	15	0	1	4	1	4	25
	感染者数	52	0	3	9	1	4	69
2014	件数	14	2	1	0	2	6	25
	感染者数	38	3	1	0	6	6	54
2015	件数	15	4	1	0	0	5	25
	感染者数	27	14	2	0	0	6	49
2016	件数	15	3	0	0	2	2	4 22
	感染者数	68	13	0	0	2	4 3	4 86
2017	件数	13	3	0	0	0	1	17
	感染者数	38	6	0	0	0	1	45
2018	件数	10	1	0	1	0	2	14
	感染者数	12	1	0	1	0	2	16
2019	件数	3 5	2	0	0	0	2	3 9
	感染者数	3 8	3	0	0	0	3	3 14

3 今回の事例含む。

4 0103の1件1名については0157も同時に検出されています。

## 《腸管出血性大腸菌感染症について》

腸管出血性大腸菌は、ベロ毒素という強い毒素を出し、腸管を傷つける病原菌です。代表的なものは、「0157」,「026」,「0111」などがあります。

腸管出血性大腸菌に感染すると、腹痛や水様性下痢、嘔吐、血便などの症状が出ます。特に、乳幼児や高齢者は、脱水症状を起こしやすく、溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な症状を引き起こす可能性がありますので注意してください。

また、二次感染（感染者から他の人に感染すること）しやすい病原菌ですので、排泄後や調理前などは手洗いを十分にしましょう。

腸管出血性大腸菌は、食品等についた少量の菌で感染するため、食品等の取扱いには注意しましょう。

- ・手をよく洗う。
- ・まな板、包丁、布巾などの調理器具は台所用洗剤でよく洗い、定期的に熱湯をかけて消毒しましょう。
- ・食材、食品は、冷蔵庫で保管し、新鮮なうちに食べましょう。
- ・中心温度が75度、1分間以上を目安として十分加熱しましょう。
- ・特に、乳幼児や高齢者は、抵抗力が弱いので、生ものや生焼けの食品は食べないようにしましょう。

腸管出血性大腸菌は、動物から感染することもあるので、動物とのふれあいには注意しましょう

- ・動物とふれあった後は、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。
- ・動物の糞便には触れないようにしましょう。
- ・動物とは、キスなどの過剰なふれあいをしないようにしましょう。
- ・動物とふれあう場所では、飲食や喫煙などをしないようにしましょう。

気になる症状があったら、医師の診察を受けましょう。

- ・主な症状は、腹痛、水様性下痢、嘔吐、血便などです。
- ・適切な抗生物質等の治療で早期に回復する病気ですが、まれに溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な症状が出ることがあります。
- ・くれぐれも自己判断で市販の下痢止めなどを飲まないでください。自己判断による服薬等で重症化をまねくことがあります。

下痢症状のある人や周囲に下痢症状のある人がいる場合は、石けんで念入りに手を洗いましょう。

溶血性尿毒症症候群（HUS）とは、赤血球の破壊を原因とする貧血や血小板の減少、急性腎不全を三主徴とする症候群です。